



EL SALVADOR

学校名： 所沢市立北野中学校

氏名： 山口 翠

[担当教科： 社会]

- 実践教科等： 地理的分野
- 時間数 : 5時間
- 対象生徒 : 中学2年生
- 対象人数 : 35人

1 単元名

断ち切ろう、負の連鎖！

2 単元の目標（ESDの能力・態度）

- ① エルサルバドルの学習を通して世界の多様な国や文化について興味を持ち、その違いを尊重する態度を育てる(つながりを尊重する態度)
- ② 「100人の村」の活動を通して世界の中の日本の立場を理解した上で世界の課題へ目を向け、よりよい解決策を考えようとする(批判的に考える力)
- ③ 「負の連鎖」を断ち切る解決策を話し合う活動を通して、仲間と協力して課題に取り組みやり遂げる楽しさに気づかせる(コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、批判的に考える力)
- ④ 国際協力の現場で働く人々の生き方に触れ、これからの自分が国際社会にどのように関わっていくかを考えるきっかけを作る(進んで参加する態度、つながりを尊重する態度)

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・エルサルバドルの食、言語、習慣、教育などについて知る【多様性】
- ・途上国エルサルバドルと先進国日本の関わりを知る【相互性】
- ・どこの国であっても生命、教育の機会、健康などが保証される必要性に気づく【公平性】
- ・様々な課題に取り組む中で仲間の意見を聞き、自分の意見を表現しようとする【連携性】
- ・よりよい国際社会を作るために日本(自分)に何ができるか考える【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

社会科の教科の目標に「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ということが大きなねらいとして学習指導要領に記されている。グローバル化が進み、様々な地球規模の問題が深刻化する中で、世界の多様な文化や国の様子に触れることはこれから国際社会を生きるために必要不可欠なことであると考える。前年度に世界の諸地域についての学習は終えており、気候やそれに合わせた生活の様子など世界全体の地理的な特色に触れているため、今回の取り組みはより、世界の課題や問題点に焦点を当てることを意識した。また、生徒にとって全く知識のないエルサルバドルという国を教師が見てきたことを通して学ぶ中で、多様な文化を尊重しあうことや、日本が世界の中で果たす役割の大切さを伝え、自分から関わっていく態度を養うことを目標に挙げた。

(2)児童生徒観

事前にエルサルバドルを知っていた生徒は学年の中に一人もおらず、地図帳で確認しても中米にある小さな国と捉えた生徒が大多数を占めた。夏休みが明けるとどんな国だったか、何を食べたか、何をしてきたのかと質問する生徒も多く、教師が見てきた国に対する関心は高いと感じた。前年度の世界の諸地域の学習の際には一つ国を選んで文化や歴史的遺産についてのレポート作成を行った。また、道徳の実践でも映像資料でスラムに住む子どもたちの生活に触れている。しかしそれらの問題に対して国際協力の現場や活動の内容などまで目を向けた実践はできていない。発展途上国の生活環境の悪さや食糧問題、平均寿命の違いなどデータとしての知識はあるが、自分たちの生活とつながっている意識は低い。課題へ取り組む意欲や協力性はあるため、知識を活用し自分たちの言葉で話し合い、課題を解決していく方向へ導きたい。

(3) 指導観

今回の実践では ESD の能力である他者と協力し、コミュニケーションを行うことを授業の中に意識的に取り入れた。具体的には5, 6人の小グループで話し合って意見を出し合ったり、グループで意見をまとめたり、その意見を全体で共有したりする時間を多くとり、自分の言葉で表現する場面を作った。また、エルサルバドルの国について伝える際には数多くある写真や動画の中から発展途上国の課題に触れながらも、人々の笑顔や生活の様子、美しい風景などプラスの面も多く紹介するようにした。生徒たちが知っているアニメの話題や食べ物の違いなどから興味を持たせ、違うことの面白さや日本とのつながりが意識できるようにした。エルサルバドルに関する学習を通して世界の様々な国に興味を持ち、世界の諸問題を解決していこうとする姿勢を育てていきたい。

5 評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
評価規準	エルサルバドルの人々の生活を通して世界の多様な文化や国の様子について関心を持ち、意欲的に捉えようとする。	エルサルバドルや国際社会における課題について多面的・多角的に考察し、解決策を話し合う際にはその過程や結果を自分の言葉で表現できる。	エルサルバドルの人々の生活や、国の様子に関する様々な資料から有用な情報を適切に選択している。	エルサルバドルや国際社会における様々な課題について理解し、JICA の支援や国際協力についての知識を身に付けている。
評価方法	学習の様子・発言 授業の感想 話し合いの参加	ワークシートの記述 発言の内容	学習の様子 ワークシートの記述	発言の内容 授業の感想

6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7授業事例の紹介」に記載

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	この写真、何が見える？	さまざまな国の様子を知る 外国の風景や人に対する先入観に気づく エルサルバドルに興味を持つ	・各班1枚(計6枚)の写真に気づいたことを書き込んでいく⇒服装、風景、建物、持ち物などに注目させる ・その写真にタイトルをつける⇒読み取ったことをまとめるようなタイトルを話し合う ・各班の写真を見せながら読み取った内容と自分たちが考えたタイトルを発表する ・全部の写真に関する質問を出す
2	エルサルバドルを知ろう	エルサルバドルの国の様子を知る	・パワーポイントやクイズを通してエルサルバドルを知る⇒国の場所、言葉、食事、町の様子、病院、学校などから日本と違うこと、同じことを知る ・エルサルバドルの課題を知る
3	世界がもし100人の村だったら	世界の縮図を体験することで課題に気づく	・100人村のアクティビティに参加する 男女の割合、子どもと高齢者の割合、大陸ごとの人口の割合、主な言語、識字率などカードに記入してある人物になって体験する⇒気づいたことや感じたことをワークシートに記入して発表する
4	断ち切ろう、負の連鎖	学校にいけないことの連鎖を断ち切る方法を考える	・学校に行けないことで生じる連鎖を考える ・負の連鎖を抜け出すための方策を話し合う ・班ごとに発表する
5	世界で活躍する日本人	JICA の支援を知る 国際協力の方法を知る	・JICA の活動やエルサルバドルで活躍していた日本人の映像を見る ・それぞれの支援の内容や成果を知る

7 授業事例の紹介

小単元名【 断ち切ろう、負の連鎖 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月9日(木)第5限

(イ)実施会場 2年1組教室

(ウ)本時の目標

- ・学校に行けないことによって生じる問題を理解し、派生する問題を通してその後どのような影響があるかを気づかせる(思考・判断・表現)(知識・理解)
- ・教育を受けられない状況が様々な因果関係によって成立していることを理解し、この状況から抜け出すためにどうすればよいか考える(思考・判断・表現)

(エ)指導のポイント

- ・カードを利用して負の連鎖が目に見えるようにした
- ・「治安が悪くなる」というキーワードから前時までのエルサルバドルの学習と関連付けるようにした
- ・グループの話し合い活動を取り入れることで協力して課題に取り組みやすい雰囲気を作った

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動【予想される反応】	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 10分	100人村の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者3名が3種類のアラビア語で表記されたコップの液体を選んで飲む ・字が読めないことの不便さを思い出す 	一斉指導	字が読めないということが学校に行けないということにつながっていることを気づかせる	関心を持って取り組んでいるか(意欲)
展開 35分	学校に行けない原因と結果がどのような連鎖になっているか考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行けない理由を周囲の人と相談して考える【近くにない・お金がない・親の代わりに働く・時間がない】 ・12枚のカードを原因⇒結果になるように並べる 	グループ活動 話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・原因⇒結果になるように自分たちでカード(付箋)を付け加えてもよい 	発言(意欲) 班のカード(思考) 話し合いの様子(表現)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>カードの内容</p> <p>学校にいけない・収入が少ない・読み書きができない・食料が買えない・仕事ができない・働くための技術や能力が身につかない・十分な栄養が取れない・収入の安定した仕事に就けない・学校に行く時間がない・子どもが親の手伝いをしなければいけない・自分の子どもも学校に行けない・病気になりやすい</p> <p>代表のグループが黒板に並べる</p> </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> ・「治安が悪くなる」というカードを連鎖に組み込む(派生してどんな問題が起きるか気づく) 		<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルで起きている問題に近づく ・負の連鎖が他の問題も引き起こすことに気付かせる 	発表の様子(思考・表現)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手が止まるグループには治安が悪いとは具体的にどのようなことが起きることだろう?と考えるヒントを与える。生徒から出たイメージや言葉から話し合いが進むように導くように心がける。</p> </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> 【ルールを教えてもらえないから治安が悪くなる・食料を買うお金がないから盗む・つかまると学校に行けない・親がいないと生活できなくて犯罪を起こす治安が悪くなると大きな紛争につながる】 			

<p>□評価 A…他の人の意見を聞き、誰がどのような方法で連鎖を断ち切るのか述べられる B…他の人の意見を聞き、連鎖を断ち切る方法が述べられる C…他の人の意見を聞き、授業の感想が書ける</p>				
	<p>連鎖を断ち切るために誰が何をすればよいのかを考えさせる</p> <p>各班で発表する</p>	<p>・負の連鎖を断ち切るための解決策を班で話し合う【食料を援助する・医者を派遣する・学校にボランティアで教えてくれる人を雇う・給食を配る・字を教えてくれる場所を増やす】</p>	<p>・具体的に誰がどんなことをすればよいのか明確にしてプリントに記入させる</p> <p>・話し合いが進まない所に支援に入る</p>	
まとめ 10分	<p>連鎖を断ち切るための組織としてのJICAを紹介する</p>	<p>・JICAについて知る</p>	<p>エルサルバドルで出会った日本人を次回紹介する。掲示物でまとめたものを利用する</p>	

(2) 授業の振り返り

100人村の授業を行ってから時間が空いてしまったので字が読めない不便さの確認から実践した。学校に行けない原因は生徒の中からいくつも意見が出て全体の知識として共有できていた。連鎖を考えさせる取り組みになると何通りもある答えのため悩む班が多かったが、意見を出し合ってカードを並べる姿が見られた。「治安が悪くなる」のカードを連鎖に組み込むことは貧しいから盗む、食糧が手に入らないから奪うなど決めつける雰囲気にならないよう配慮が必要だと感じた。ただ、このカードを入れたことでエルサルバドルの状況と近づき、問題の複雑さを生徒が実感したように思う。班で考えて発表させるときに言葉だけでなく、誰が何をするのかを目に見える形で残しておくで最後に個人のまとめを書かせるときに手が進まない生徒への支援になると感じた。

(3) 使用教材

授業で使用したワークシート

断ち切ろう、負の連鎖!

<活動の目標>①学校に行けないことによって生じる問題を理解する
 ②学校に行けない状況から抜け出すために何をすればよいのか考える

<活動の内容>

① 配布したカードの「学校に行けない」を一番目に書いてそこからどのように他のカードがつながっていくか考えよう。
 ※項目が足りない場合や他のつながりが考えられる場合は白紙の紙に書いてつなげていくこと

【カードの内容】

学校に行けない	仕事ができない	学校に行く時間がない
収入が少ない	働くための技術や能力が身につかない	子どもが親の手伝いをしなければいけない
読み書きができない	十分な栄養が取れない	自分の子どもも学校に行けない
食料が買えない	収入の安定した仕事に就けない	病気になりやすい

② もしこの連鎖の中に「治安が悪くなる」というカードが入れるとしたらどこに入るか考えよう
 ※項目が足りない場合や他のつながりが考えられる場合は白紙の紙に書いてつなげていくこと

③ 負の連鎖を断ち切るために何が必要か考えてみよう

➡

を断ち切る!

➡

を断ち切る!

◎今日の活動を通して感じたこと、分かったことを書こう

組 番 名前

<参考資料(本時以外で使用した教材)>

[小単元1 フォトランゲージで使用した写真]

これらの写真をA3に拡大したもの(カラー印刷にラミネートをかける)と同じ写真の白黒印刷したもの、模造紙を4分の1に切ったものを生徒に配布し、白黒のものを模造紙に貼らせて写真から気づいたことや見えたものをペンで書きこませる。

JICA 職員と現地警官



小学校の子どもたち



小学校の休み時間



ププサ作り



市場の様子



スチットの街並み



[小単元2 エルサルバドルを知ろう パワーポイント資料(一部)]

エルサルバドルの風景や食べたもの、体験してきたものを紹介する。国旗を黒板に掲示したり、藍染のスクarfなどを持っていき興味を引くような導入を心がけた。アニメの歌を歌ってくれた場面や小学校の交流の様子は動画で紹介した。

クイズ②
この中にはフリホーレスという豆が入っています。全て味は?

①甘い
②辛い
③しょっぱい
④すっぱい

ププサ
エルサルバドルの家庭の味。トウモロコシの粉を練って豆、チーズなどを入れ焼いたもの

藍染め
エルサルバドルの伝統的な技術。一度は途絶えかけたが日本人の手によりよみがえる。

クイズ④
真ん中の青年がこの絵歌で歌ったアニメの主要登場人物は?

①ワンピース ②セーラームーン
③ハイジ ④ドラゴンボール

クイズ⑤
この女性が持っている紙は何でできている?

①ビニール袋
②トウモロコシ
③ビーズ
④紙

エルサルバドルの休み時間

スナック菓子も!

食べ物が支給される

学校名の入った朝飯

1~9年生までいる

(4)参考資料等

- ・『ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら』開発教育協会発行(2003年)
- ・『国際理解教育実践資料集』JICA地球ひろば編集、埼玉県立総合教育センター監修(2014年)
- ・国立教育政策研究所「ESDの学習指導課程を構想し展開するために必要な枠組み」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf>(2016年1月4日アクセス)

・国立教育政策研究所 教育課程研究センター

「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 社会)」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/02_chu_shaki.pdf> (2016年1月4日アクセス)

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

【エルサルバドルを知る】の感想

- ・中米の日本と言われると親近感が湧きました。他にも日本との共通点が知りたい
- ・日本とエルサルバドルの交流する場はないのかな、と気になりました
- ・エルサルバドルの人との会話で笑い声が出ていて、私もいつか外国の人と仲良く話してみたい

【100人の村だったら】の感想

- ・私たちの普通の生活は世界ではほんのわずかの人ができない生活なんだとわかった
- ・世界に住む人全員が協力しないと恵まれない人が増えてしまうのがよくわかった
- ・エネルギーの使い方や富の分け方など平等でないことが多く、村として考えたらおかしいと思います
- ・世界の中でも恵まれている僕らは食べ物などを大切にしないといけないと思います
- ・自分が子や空爆を心配しないで生きていることや健康なことに感謝して生きていきたいです

【断ち切ろう、負の連鎖】の感想

- ・自分たちだけでは連鎖は止められなくても他の国の力を合わせれば止められると分かった
- ・連鎖を断ち切るには知識が身につけている人など周りの人の協力が必要だと感じた
- ・日本は恵まれているけど見て見ぬふりをせず考えることが大切だと思います
- ・他の国が困っているときは国境関係なく助け合うことが大切だと思いました

単元全体を通して話し合い活動を意識して取り入れた結果、普段の授業でも少人数のグループで意見を聞きあったり教えあったりする姿が増えてきた。また、エルサルバドルの生活を知ることによって日本との違いに興味を持ち、さらに他の国へ関心を向ける生徒もいた。自分たちに何が出来るかは規模が大きすぎる話のように感じて具体的な行動には表れないが、恵まれている環境で生活しているからこそ、世界で大きな役割を持っていると気づき、今を大切に生きて将来何かをしたいと感じた生徒が多かった。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

生徒たちの活動の様子、ワークシートの記述内容や意見交換での発言内容から、「2単元の目標」に記載した目標が達成状況について検証し、今後の改善案を検討した。

[成果]

- ・生徒たちがエルサルバドルの国を知ることによって世界の他の国への関心も高まった(目標①)
- ・100人村の取り組みから世界の諸問題を知ることによって自分たちの生活を振り返ることができた(目標②)
- ・5~6人のグループで課題に向き合い話し合う活動を意欲的に取り組み生徒が増えた(目標③)
- ・写真や映像から楽しく外国の人と関わり、日本人が活躍する姿に憧れを持つ生徒がいた(目標④)

[課題]

- ・話し合い活動の際に意見を言う人が偏る場面があった(目標③)
- ・自分たちができる具体的な活動がなかなかイメージできなかった(目標④)
- ・エルサルバドルに行った今年だけでなく毎年ここで得た資料などを使って実践ができるように年間の単元計画を立てることが必要

[改善案]

- ・恵まれていて幸せ、で終わらない活動や具体的に支援をしている姿を知識として伝える授業を行う
- ・ワークシートを配るタイミングは早い方が生徒が1時間の見通しができる
- ・話し合い活動では6人グループでも机は4つにして生徒同士の距離を短くする工夫が必要
- ・1年生の世界の諸地域の単元での実践と3年生のODAに触れる授業での実践を計画している

10 教師海外研修に参加して

全ての研修プログラムを通して多くの学び、多くの出会い、多くの気づきがあった。自分が途上国の現実を見てみたい、それを生徒に伝えられる授業がしたいと参加した研修の中で出会った人たちとのつながりは一生の財産になると感じている。誰かの疑問をみんなで共有し、同じものを見ても違う視点を持つ仲間刺激を受け、自分の言葉で語り合った時間はESDを常に体感していたのだと思う。研修で学んだ授業方法やたくさんの生きた資料をこれからも授業で活用し、実践を続けていきたい。